

トレンブルシアター 2020

精神病院つばき荘

作・くるみざわ しん

観劇&トークショー

土屋 良太

川口 龍

近藤結有花

作:くるみざわ しん
演出:トレンブルシアター
演出協力:大内史子
音楽:小森広翔
衣装:近藤結有花
舞台写真:横田敦史
題字:園内茜
出演:土屋良太
川口龍
近藤結有花



5月16日(土)

ゆるびの舎(早島町)

TEL086-482-4800



アクセス

5月17日(日)

岡山ふれあいセンター

(岡山市中区桑野)

TEL086-274-5151



アクセス

13時半開演(開場13時)~16時30分終了(両日とも)

13:30~15:20 上演 15:30~16:30 トークショー

参加費:大人 2,000円 大学生以下・当事者 1,000円

岡山市
早島町
後援

上演後、山本昌知先生(精神科医)と、くるみざわしん先生(原作者、精神科医)のトークショーを予定!

主催:「精神病院つばき荘」を観る会

連絡先:070-2366-8877(事務局)

～主催者あいさつ～

コミュニケーションの大切さについて考える機会に



精神科医

山本 昌知

(「精神病院つばき荘」
を観る会 代表)

現代を生きる私たちは、物質的な豊かさを享受し、日常生活は格段に便利なものとなり、人工知能の時代の到来も遠い未来のことではなくなりました。際限のない欲望に駆られ、果てしなく競争し、他人に勝利することに大きな喜びを感じます。その反面、時と場を共にしながら他者と十分なコミュニケーションを取ることが難しくなりました。人間同士の不和が強まり、集団間の分断は深刻さを増しています。不安が拡大し、標準への同化が無条件に要求される中で、人々の相互理解の可能性は、着実に失われつつあります。私たちはまるで、不安と不信の渦の中に生きているようです。

この度、演劇「精神病院つばき荘」を上演する運びとなりました。この演劇は、単なる一精神病院の描写を越えたテーマを扱っています。私たちにとって、互いに相手の世界を理解することがどれほど大切で、そして、どれほど難しいことであるかを考えさせてくれる、そんな演劇なのです。皆さんと共に、コミュニケーションの大切さについて考える機会となれば、これにまさる喜びはありません。

つばき荘入院患者がつぶやく「私たちはとてつもなく大きなものに見放され見捨てられている。」



物語の最後に語られる祈りと希望とは

沖縄や原発、暗い事件と不条理があふれる社会で、ほんとうの強さ、やさしさとは



(劇作家、精神科医)

くるみざわしん

「精神科医にはクリーンとダーティの2種類があって、君らは、残念かも知れへんけど、ダーティの方へ行くわけや」

—先輩医師の言葉には自嘲の趣があって、新人の私は「ダーティ」とは何なのかを知らないまま笑った。思い知ったのは、当直で行った郊外の精神病院の夜の回診だった。内側から開けることのできない部屋に何年も収容されている人、ベッドに毎晩くり付けられていてる人を診察し、カルテに記載しないといけない。私のその行為でその人の「隔離」「拘束」は続く。診察したくない、カルテ記載をしたくない。この人を解き放つのが治療ではないか。しかし、私は他の医師と同じように診察し、カルテ記載をした。私は「ダーティ」となり、その後も汚れ続けた。

精神科医として働いて20年。増す一方の汚れをどうにかしたい。その一念で書き上げたのが本作である。上演を通して汚れを落としたいわけではない。光をあてて、正体をもう一度とらえたいのだ。